福島第一原子力発電所
2026年度第7回（通算25回）ALPS処理水海洋放出の完了

<参考資料>
２０２６年１１月１３日
東京電力ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 当社は、2026年度第7回（通算25回）のALPS処理水海洋放出を、10月26日午前11時29分から実施しています。
- 放出期間中は、ALPS処理水（トリチウム）の希釈が適切に行われているか毎日確認することを目的に、海水で希釈後の水のトリチウム濃度を分析し、トリチウム濃度が計算上の濃度と同程度であることおよび1,500ベクレル/ﾘｯﾄﾙ未満であることを確認しています。
- 発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/ﾘｯﾄﾙ程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※1または30ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※2 ）および調査レベル（350ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※1または20ベクレル/ﾘｯﾄﾙ※2 ）以下であることを確認しています。

※1 発電所から3km以内の10地点　※2 発電所正面の10km四方内の4地点

<2026年10月26日までにお知らせ済み>

- 2026年度第7回（通算25回）のALPS処理水海洋放出は、約460m^3/日の放出量で安定的に推移し、海水中のトリチウム濃度についても、当社が実施する迅速な分析の結果等から、計画的に安全に行われていることを確認しています。
- 測定・確認用設備C群からのALPS処理水の移送が、11月12日午後2時37分に終了し、 ALPS処理水移送ラインの配管内に残っている水（ALPS処理水）の、ろ過水による押し流しが、11月13日午後0時17分に終了したことをもって、2026年度第7回（通算25回）のALPS処理水海洋放出が完了しました。（総放出水量：7,835m^3、トリチウム総量：約1.4兆ベクレル）
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

［参考］2026年度ALPS処理水放出計画・実績（1/2）

- 2026年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数8回、年間放出水量約62,400m³、年間放出トリチウム量約11兆ベクレルを計画。なお、年間放出トリチウム量は移送元タンク群での分析値と測定・確認用タンク群での分析値の違いによる影響等のため、計画値と実績値に若干の違いが生じる場合がある。

下線：実績値

管理番号※1	移送元タンク		移送量		放出期間（放出量）
26-1-19	H2エリアJ群 H1東エリアC群	（測定・確認用設備 A群に移送） （測定・確認用設備 A群に移送）	：約7,390m³ ：約390m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.31 トリチウム濃度 ：24万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.9兆ベクレル	4/2～4/20 (7,865m³)
26-2-20	H1東エリアC群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約7,780m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.45 トリチウム濃度 ：17万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.3兆ベクレル	6/1～6/20 (7,927m³)
26-3-21	H1東エリアC群 H1東エリアA/B群	（測定・確認用設備 A群に移送） （測定・確認用設備 A群に移送）	：約3,580m³ ：約4,200m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.48 トリチウム濃度 ：17万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.3兆ベクレル	7/6～7/24 (7,894m³)
26-4-22	H1東エリアA/B群	（測定・確認用設備 C群に移送）	：約7,770m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.61 トリチウム濃度 ：17万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.3兆ベクレル	7/30～8/17 (7,888m³)

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。

［参考］2026年度ALPS処理水放出計画・実績（2/2）

TEPCO

下線：実績値

前スライドより

管理番号※1	移送元タンク		移送量		放出期間（放出量）
26-5-23	H1東エリアA/B群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約4, 570m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.52 トリチウム濃度 ：16万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.3兆ベクレル	8/31～9/18（7,863m³）
	H2エリアB群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約3,200m³		
26-6-24	H2エリアB群	（測定・確認用設備 A群に移送）	：約5,890m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.30 トリチウム濃度 ：15万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.2兆ベクレル	10/5～10/23（7,852m³）
	K1エリアC/D群	（測定・確認用設備 A群に移送）	：約1,880m³		
26-7-25	K1エリアC/D群	（測定・確認用設備 C群に移送）	：約7,770m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.14 トリチウム濃度 ：18万ベクレル/リットル トリチウム総量 ：1.4兆ベクレル	10/26～11/13（7,835m³）
点検停止（測定・確認用設備 A群タンクの本格点検含む）					
26-8-26	K1エリアC/D群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約1,540m³	二次処理 ：無 告示濃度比総和 ：0.35～0.50 ※2 トリチウム濃度 ：19万ベクレル/リットル ※3 トリチウム総量 ：1.5兆ベクレル	放出開始時期 2～3月予定（7,800m³）
	G4南エリアC群	（測定・確認用設備 B群に移送）	：約6,250m³		

➥ 2026年度放出トリチウム総量：約11兆ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。
※2 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。
※3 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

［参考］迅速に結果を得る測定のモニタリング計画

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す枠内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ程度）を実施しております。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

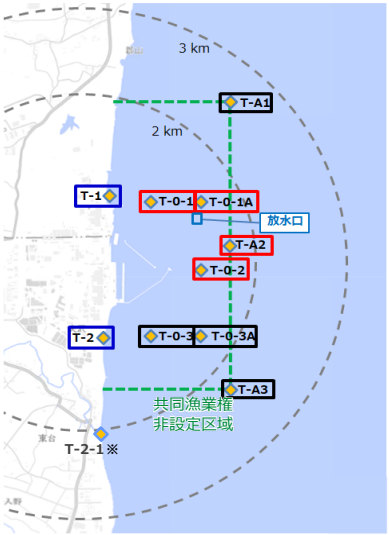


図1　試料採取地点　発電所から3km以内（放水口付近）

□ □ □: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル） 700ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ

※ T-2で安全が確保出来ない場合の代替地点

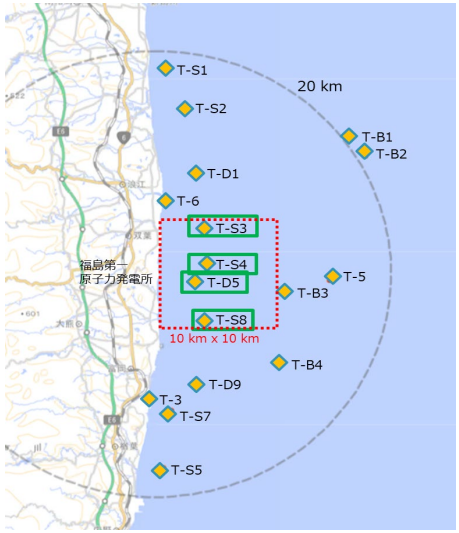


図2　試料採取地点　発電所正面の10km四方内

□: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル） 30ﾍﾞｸﾚﾙ/ﾘｯﾄﾙ

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内
	放水口周辺4地点 □	その他6地点 □ □	4地点 □
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8：月1回
放出停止期間中 （放出終了日から1週間を除く）	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う。

※2 2023年８月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきましたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した。
(2023年12月25日公表)